

ラクデーン使用上の注意改訂のお知らせ

拝啓、時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。
平素は弊社製品に対し格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
この度、ラクデーンの使用上の注意を下記のとおり自主改訂致しましたのでご連絡申し上げます。
今後のご使用に際しましては、新しい〔使用上の注意〕をご参照下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

「相互作用」の項を下記のとおり改訂致します。(下線部改訂箇所)

改 訂 後			改 訂 前		
併用禁忌(併用しないこと)			併用禁忌(併用しないこと)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
タクロリムス (プログラフ) エブレノン (セララ)	高カリウム血症が発現することがある。	相加・相乗作用により血清カリウム値が上昇する。	タクロリムス (プログラフ)	高カリウム血症が発現することがある。	相加・相乗作用により血清カリウム値が上昇する。
ミトタン (オベプリム)	ミトタンの作用を阻害する。	ミトタンの薬効を本剤が阻害するとの報告がある。	ミトタン (オベプリム)	ミトタンの作用を阻害する。	ミトタンの薬効を本剤が阻害するとの報告がある。
併用注意(併用に注意すること)			併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
降圧剤 ACE阻害剤、カルシウム拮抗剤、 遮断剤、利尿降圧剤等	降圧作用を増強することがあるので、用量を調節するなど注意する。	これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用	降圧剤 ACE阻害剤、カルシウム拮抗剤、 遮断剤、利尿降圧剤等	降圧作用を増強することがあるので、用量を調節するなど注意する。	これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用
カリウム製剤 塩化カリウム、グルコン酸カリウム、 アスパラギン酸カリウム等 ACE阻害剤 カプトプリル、エナラプリル、 リシノプリル等 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 ロサルタンカリウム、 カンデサルタンシレキセチル、 バルサルタン等 カリウム保持性利尿剤 トリアムテレン、 カンレノ酸カリウム シクロスポリン	高カリウム血症を誘発することがあるので、血清カリウム値を観察するなど十分注意する。	これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。 危険因子：腎障害患者、高齢者	カリウム製剤 塩化カリウム、グルコン酸カリウム、 アスパラギン酸カリウム等 ACE阻害剤 カプトプリル、エナラプリル、 リシノプリル等 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 ロサルタンカリウム、 カンデサルタンシレキセチル、 バルサルタン等 カリウム保持性利尿剤 トリアムテレン シクロスポリン	高カリウム血症を誘発することがあるので、血清カリウム値を観察するなど十分注意する。	これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。 危険因子：腎障害患者、高齢者
ノルエピネフリン	ノルエピネフリンの血管反応性を低下させるとの報告がある。	本剤が心血管反応性を低下させる機序は完全には解明されていない。 危険因子：麻酔施行患者	ノルエピネフリン	ノルエピネフリンの血管反応性を低下させるとの報告がある。	本剤が心血管反応性を低下させる機序は完全には解明されていない。 危険因子：麻酔施行患者
乳酸ナトリウム	乳酸ナトリウムのアルカリ化作用を減弱することがある。	本剤により高カリウム性アシドーシスが惹起され、 乳酸ナトリウムのアルカリ化作用と拮抗する可能性がある。	乳酸ナトリウム	乳酸ナトリウムのアルカリ化作用を減弱することがある。	本剤により高カリウム性アシドーシスが惹起され、 乳酸ナトリウムのアルカリ化作用と拮抗する可能性がある。
塩化アンモニウム コレステラミン	代謝性アシドーシスを来すとの報告がある。	これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用	塩化アンモニウム コレステラミン	代謝性アシドーシスを来すとの報告がある。	これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用
ジゴキシン メチルジゴキシン	血中ジゴキシン及びメチルジゴキシン濃度が上昇することがある。	本剤がジゴキシン及びメチルジゴキシンの腎からの排泄を低下させるため、 血中ジゴキシン及びメチルジゴキシン濃度を上昇させることがある。	ジゴキシン メチルジゴキシン	血中ジゴキシン及びメチルジゴキシン濃度が上昇することがある。	本剤がジゴキシン及びメチルジゴキシンの腎からの排泄を低下させるため、 血中ジゴキシン及びメチルジゴキシン濃度を上昇させることがある。
ジギトキシン	ジギトキシンの作用を増強又は減弱するおそれがあるので、併用する場合にはジギトキシンの血中濃度の測定を行うなど、 観察を十分に行い慎重に投与すること。	本剤の肝酵素誘導によりジギトキシンの血中濃度半減期が短縮すると考えられる報告がある。また、 機序は不明であるが、ジギトキシンの血中濃度半減期が延長したとの報告がある。	ジギトキシン	ジギトキシンの作用を増強又は減弱するおそれがあるので、併用する場合にはジギトキシンの血中濃度の測定を行うなど、 観察を十分に行い慎重に投与すること。	本剤の肝酵素誘導によりジギトキシンの血中濃度半減期が短縮すると考えられる報告がある。また、 機序は不明であるが、ジギトキシンの血中濃度半減期が延長したとの報告がある。
リチウム製剤 炭酸リチウム	利尿剤又はACE阻害剤との併用により、 リチウム中毒を起こすことが報告されているので、 血中リチウム濃度に注意すること。	ナトリウムイオン不足はリチウムイオンの貯留を促進するといわれているため、 ナトリウム排泄を促進することにより起こると考えられる。			
非ステロイド性消炎鎮痛剤 インドメタシン等	カリウム保持性利尿剤との併用により、 その降圧作用の減弱、 腎機能障害患者における重度の高カリウム血症の発現が報告されている。	プロスタグランジン産生が抑制されることにより、 ナトリウム貯留作用による降圧作用の減弱、 カリウム貯留作用による血清カリウム値の上昇が起こると考えられている。 危険因子：腎機能障害			